

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	勝山市
所属名	健康長寿課
担当者名	宇都宮、小林

※作成にあたっては、「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」P38～47を参考にしてください。

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第7期介護保険事業計画に記載の内容				R2年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援、介護予防、重度化防止	・勝山市の介護認定申請の原因疾患は、認知症、骨折・骨関節変形、脳血管疾患が全体の70%。 ・高齢期を元気に過ごすためには、生活習慣病予防に加え、加齢に伴う心身機能の低下の予防が大切。	○フレイル予防の推進	・フレイル予防に関する普及啓発 (H30) (R1) (R2) 25回 30回 40回 ・リハ職等と連携したフレイル予防事業の実施 (R1) (R2) 1地区 2地区	・フレイル予防のチラシの配布、ポスター掲示(市内スーパー、銀行、コンビニ等) ・地区における新型コロナウイルス感染症の研修会において、フレイル予防を普及啓発(10地区) ・広報、ホームページにフレイル予防の記事掲載 ・介護予防講座において普及啓発(4回) ・地区の高齢者訪問において、フレイルチェックの実施とフレイル予防のパンフレット等配布 ・リハ職等と連携したフレイル予防事業の実施 0地区	○	・新型コロナウイルス感染症の影響により、集団での介護予防教室等の実施が困難となった。 ・感染症対策をとりながら事業を実施できるように工夫し、さらにフレイル予防についての普及啓発をするともに、フレイルチェックや予防教室等を実施していく。
①自立支援、介護予防、重度化防止	・高齢化率34%。高齢になっても活動的なライフスタイルを実践したいとする方も増えている。 ・ボランティア活動することで、高齢者自身の介護予防と生きがいづくりにつながっている。	○高齢者のボランティア活動を推進する。	・地域いきいきボランティアポイント事業 登録者数 年間5人増加 ・地域いきいきサポーター養成講座 開催数 年1回、新規養成者数 年10人増加	・地域いきいきボランティアポイント事業 登録者数 R2:107人(参考R1:124人)、ポイント還元者数9人 ・地域いきいきサポーター養成講座 1回 新規養成者 0人	○	・新型コロナウイルス感染症の影響により、活動自粛が続き、生きがいづくりやボランティア活動への取り組みが困難となった。 ・感染症対策をとり、ボランティア活動への関心が高まるような働きかけや、実際の活動につながるような体制を検討していく。
①自立支援、介護予防、重度化防止	・介護予防のための地域ケア会議をH29年度から開始している。 ・自立に資するケアマネジメントのために、会議を定例化し、事例を積み重ねることで、ケアマネジャーやサービス事業所のスキルアップを図る。また、事例から地域課題を抽出し、資源開発や政策形成につなげていくことが必要。	○地域ケア会議の推進	・介護予防のための地域ケア個別会議の実施 年6回 ・事例の振り返り、事例検討後の課題についての話し合いと地域課題の抽出	・介護予防のための地域ケア個別会議の実施(オンライン会議) 2回 ・介護サービスに関する情報交換会の実施 3回(オンライン会議)(訪問介護サービス 6事業所、通所介護サービス系 9事業所、施設サービス 7施設)	○	・新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初は会議等を開催することが出来なかったが、年度途中より、オンライン会議により開催することができるようになった。 ・オンライン会議等活用しながら、地域ケア会議や事業所との意見交換会を継続して実施していく。また、事例検討により出された意見や課題をまとめ、具体的な取り組みを検討していく。
②介護給付等費用の適正化	・認定調査員により、調査結果にばらつきがみられる。 ・平成29年度から居宅介護支援事業所の指定権限が市町村に移譲された。	○認定調査の平準化 ○サービス事業所への指導	・認定調査員研修の実施 年2回 ・実地指導の実施 居宅介護支援事業所 年2事業所 地域密着型サービス事業所 年2事業所	・認定調査員研修 2回 ・実地指導 居宅介護支援事業所 3事業所 地域密着型サービス事業所 3事業所	◎	・初任者研修及び現任者研修を実施。継続することで認定調査の平準化を図る。 ・実地指導のなかで、不適切な事例が散見された。指定期間内に1回以上実地指導を実施していく。